

私の HR クラスは 1 年 4 組であったが、授業が日本史担当のため、クラスと関わる機会は終礼しかなかった。そのため、生徒との距離も遠く、1 週目は馴染むことが出来なかった。しかし、このままだと何も変わらないと感じた私は放課後に設けられる文化祭優先時間を活用した。文化祭優先時間は、部活動をストップし、クラス全員で文化祭の準備を行うというものである。そこで、積極的にクラスの輪の中に入り、クラスに溶け込む努力をした。すると、少しずつ生徒と話す機会が増え、3 週目には笑顔で会話出来るところまで仲良くなれた。そして文化祭当日。私たち 1 年 4 組は展示部門で学年優秀賞を受賞した。その時、私は何も考えることなくガッツポーズをしてしまった。しかし、この感情こそが学校の先生のやりがい、担任のクラスを受け持つ責任感なのだと実感した。

教育実習に行って、初めて分かる先生の努力。私たちと同じ時間まで残って授業準備をする先生、生徒たちに対して、どのようなアプローチが最善なのかを考えた結果、ヒートアップして口論になる先生、それだけ本気ってことだと思う。先生は本当に生徒のこと考えているのかな？授業さえやればそれでいいとか思っているのかな？私の心の片隅にはこの感情があったが、今は微塵もない。この 3 週間の経験は私にとってかけがえのないものになったし、またこの感覚を味わいたいとも思った。私を受け入れてくれた母校に感謝したい。